

04

お客様や地域社会、社員に配慮した 生産拠点のマネジメント

品質・環境・労働安全衛生の マネジメントの向上を通し、 操業する国や地域への貢献をめざす

OKIグループの海外生産

企業活動のグローバル化に伴い、OKIグループも市場や生産拠点を海外に拡大してきました。現在、量産品の生産はタイと中国の工場が担っています。OKIの海外生産は、単に経済的なメリットを追求して展開しているのではなく、操業地域の発展に貢献することをめざして運営しているところに特長があります。

そのためには、まず責任ある企業経営が求められます。ものづくりに取り組む現場では、製品の厳格な品質管理はもちろん、生産に伴う環境負荷の低減、製造現場で働く社員の労働安全衛生など、幅広い取り組みが不可欠です。OKIグループでは、「OKIグループ企業行動憲章」にこれらの項目を掲げて取り組み、社会的責任の遂行に努めています。

それぞれのマネジメントシステムの 構築と適切な運用

品質に関しては、品質統括部門のもと、各事業部門およびグループ各社に品質保証部門を設け、お客様に確実に「安心」をお届けするための品質保証活動に取り組んでいます。またすべての生産拠点でISO9001の認証を取得し、生産ラインや製品特性にあわせた最適な

品質管理体制を構築しています。

環境については、グループ全体で効率的に環境活動をマネジメントする「全社ネットワーク型環境経営」を推進しています。(p32-33参照)

また労働安全に関しては、生産拠点ごとに労使で構成する「安全衛生委員会」を設置して日常的に管理しているほか、本社担当部門が共通の基準に沿って各拠点の管理状況を確認する「安全実査」を2001年度から毎年実施しています。

こうした取り組みについてお客様から尋ねられることも増えており、多様化するご要望にお応えするためにも、グループ全体で、また各拠点において、これらを適切に管理する仕組みの充実に努めています。



中国のキーボード生産拠点、日沖電子科技(昆山)有限公司の最終検査ライン

C o m m i t m e n t

OKIの海外生産は、その国や地域にとって意義深い存在であろうとするとところに特長があります。高度な加工技術、実装技術、試験技術が求められるOKIの製品群を生産するために、現地ベンダー、社員と一体となって、現地の生産技術の底上げと、日系ならではの緻密な生産管理の浸透に努めています。また社員には、IT教育、語学教育、認定取得などを通じて、どこでも通用する技能を会得してもらっています。

これからも、国や地域の法制度や文化、慣習を尊重しつつ、安定した生産基盤を維持することで、「安心できる製品」、「信用できる企業」を追求していく所存です。

執行役員

森園 英人

Hideto Morizono



操業する国や地域に 貢献する存在になるために

さまざまなマネジメントシステムの運用による安心・安全な操業の実現に加え、操業している地域の発展に貢献することも、企業に求められる社会的責任の一つです。社員が業務を通じて得た技能を社会に役立ててもらおう

はもちろんのこと、OKIとしても地域の皆様とのコミュニケーションや地域貢献活動に積極的に取り組んでいます。これらの活動を通じて、「OKIグループ企業行動憲章」に掲げた「国や地域との協調」を果たし、地域社会との良好な関係を構築していきます。



タイ北部のOKI Precision (Thailand) では、地元ランブーン県の天然資源環境局およびメーターパーバウ村の協力によりチークの植林を実施

Colum

現地スタッフによる地域に根付いた生産拠点マネジメントの推進

1994年にタイ中部のアユタヤ県に設立したOKI Data Manufacturing (Thailand) (以下、ODMT) は、プリンタのほかファクシミリを年間50万台製造、その全量を世界各地に輸出する、OKIデータの主力生産工場です。ODMTは、社員約1,250名のうち、タイ人スタッフが99%を占めており、ODMTの経営理念とめざす姿を実現するために、数人の日本人スタッフとともに「タイ人主体」の生産改革を実行し「タイ人主体の日常業務運営」ができる工場をめざしています。

世界に通用する品質を

ODMTは、100ヶ国以上に製品を輸出しており、世界に通用する品質を確保するために、ドイツ、デンマーク、中国、アメリカなど各国の製品安全規格の認証を受けています。この認証を取得・維持するため、現状把握から始めるCAPDo (Check, Action, Plan, Do) を基本とし、製造部門内に改善チームを設けるなど、徹底した現場管理を実施してきました。

環境活動も一人ひとりが担い手

こうした生産改革は無駄の排除、さらには環境負荷の削減というかたちでも効果を表しています。ODMTでは、環境意識の向上に向け環境週間を設けるほか、マングローブの植林、タイの慣習を取り入れた母の日のジャスミンの苗木進呈など、多様な施策を実施してきました。2008年度には、社員の家庭における



社員や家族約200名が参加して行った、マングローブの植林

意識啓発も図るため「ストップ・地球温暖化キャンペーン」を開始。キャンペーンのロゴ入りTシャツの配布や、自宅で使っている白熱灯と電力消費量が大幅に少ない「電球型蛍光灯」との無償交換などを実施しました。

地域に根付いた企業をめざして

さらにODMTでは、企業市民の責任として、OKIグループの代表的な社会貢献活動である職場での献血を実施しているほか、子供の日のプレゼント、アユタヤ県の麻薬撲滅運動の一環として行われるスポーツ大会への参加など、地域との連携を意識した活動を展開しています。

2008年8月には、工業省の全国環境保全活動に参加、地域住民の皆さんを工場に招待し、環境活動への理解を深めていただきました。こうした活動が評価さ

れ、タイ政府より環境保全活動推進企業として認定されています。

これらの活動を担うのは、現地スタッフ一人ひとりでです。OKIグループは、今後も現地スタッフの育成を図りながら、地域に根ざし、地域に貢献する企業活動を展開していきます。



地域の皆さんを工場に招待



「環境保全活動推進企業」の認定証

Voice

Thatri Chempalee



OKI Data Manufacturing (Thailand)
環境担当マネージャー

タトリ・チェンパリー

環境問題に取り組むため日本の工場なども視察していますが、鍵となるのは、現場スタッフ一人ひとりの環境に対する意識の向上だと思っています。ODMTでは、CO₂削減に向けた計画を各部署のタイ人スタッフが具体的な改善内容として自ら考え、実行しています。植林活動や苗木の配布などを通じて、家庭や地域社会と連携しながら環境活動を進めていきたいと考えています。